

瓶史國字解

冷

79  
4063  
3









奥向の事をいふ嬪御とハ嬪ハ仕女あり御ハ君と給仕するの義あり  
 嬪御と去て官女の事あり。閨房とハ閨ハ祿やの事あり房ハつねね  
 部室の事あり閨房とハ尋常のねやの事あり。妾媵とハ妾も媵も  
 めうけの事あり是ハ天子の中宮の皇后ハ嬪御の官女の侍て居が  
 めきま。諸侯の閨房の王のち子夫人ハ妾媵のめうけ女の有が  
 めき猶花子も主人と好の使令がわるとあり。又山花字亦妖艶  
 寔は多事烟惹雨亦自便嬖忌可少哉とハ山花字亦ハ山の  
 花字亦あり此亦の字ハ字亦も亦も通る文字亦て都る諸の字亦と  
 去事あり妖艶とハ妖ハこひるといふ字艶うるべきと去字まで妖艶  
 めくといふ事亦烟とハ烟ハひりり明うといふ事亦ハハむれもてわなぶ  
 と去事あり惹雨とハ雨と帯て引更るといふ事亦自便嬖とハ便嬖  
 ハ美女の媚態とて可憐らと去事あり忌可少哉是去意ハ尖  
 山の花字亦法の字亦寔は多一妖とるものあり艶とるものありて  
 いちめきこちて烟うらうら子弄わそふ様もあり雨と惹ひきてう  
 るハ一きありて色と様との態ありとありて亦自美女の媚態  
 美しく可愛き様忌を少くべけん我主人も好も使令もあけ  
 れハあるぬものありといふことあり

梅花以迎春瑞香山  
 茶為婢海棠以頻婆  
 林禽丁香為婢牡丹  
 以玫瑰薔薇木香為  
 婢芍藥以嬰粟蜀葵  
 為婢石榴以紫薇大  
 紅千葉木槿為婢蓮  
 花以山礬玉簪為婢  
 木樨以芙蓉為婢菊  
 以秋海棠為婢蠟梅  
 以水仙為婢諸婢姿  
 態各盛一時

梅花以迎春瑞香山茶為婢海  
 棠以頻婆林禽丁香為婢牡丹  
 以玫瑰薔薇木香為婢芍藥以  
 嬰粟蜀葵為婢石榴以紫薇大  
 紅千葉木槿為婢蓮花以山礬  
 玉簪為婢木樨以芙蓉為婢菊  
 以秋海棠為婢蠟梅以水仙為  
 婢諸婢姿態各盛一時

迎喜瑞香山茶の類といふ好と為とあり迎春ハおんえのあり瑞多ハ  
 沈丁多かり山茶ハつむきあり是つむきの本字あり椿ハ俗通の誤あり



○海棠以頻婆林禽丁多為婢とハ頻婆林禽ハ赤章は悉解す  
 丁多ハ丁子の本なり是ハ日本子なきものなり ○牡丹以玫瑰蓋蔽  
 本多為婢とハ玫瑰ハたまふすといふものなり 蓋蔽ハいそらと云者也  
 赤章は悉く記す ○芍藥以嬰粟蜀葵為婢とハ嬰粟ハ芥子  
 の花蜀葵ハわびひをわびひの事なり ○石榴以紫莖大紅子葉  
 本槿為婢とハ紫莖ハさるすべりの花なり 百日紅とも云なり 大紅子  
 葉の本槿ハ本槿と云くけの花なり 大紅ハ色の濃赤事子葉ハ  
 八重の事なり 是ハ緋の八重の本槿の花の事なり 石榴ハさく  
 ろの花なり ○蓮花以山礬赤管為婢とハ山礬ハとちまハと云  
 ものなり 玉簪ハさくろハあり ○本槿以芙蓉為婢とハ本槿も  
 芙蓉も和漢通名なり 悉く赤章は悉す ○菊ハ秋海棠為婢  
 とハ是も二種とも和漢通名なり 悉く赤章は悉す ○繡梅ハ水  
 仙為婢とハ是も和漢同名なり 赤章は悉す ○法好姿態各感  
 一時ハ法好姿態ハ法ハもろくと續字婢ハ腰元女なり 如斯  
 法の花ハ口吹くの婢と云るべき花を書つたねこれともまご是なり  
 てハち天地の間字本一切法の花ハ好と云るべき花といくらもわり  
 是と諸好と云なり 姿態とハ姿ハさくこと云字態ハさくちありなり

と云事各盛一時とハ其法多本婢とも云るべきもの主人とも云るべき  
 花皆色々の姿態換々の質姿をいへる花とも各一時盛なるも  
 のあり 梅の婢ハ山茶 沈丁花 およびの數菊ハ秋海棠等是其  
 時一同盛なるものなり 花子主人と使令とありて總て花と以美人  
 子譽一也の奴斯の如し 是云意ハ前云通花の出生の性質の人品  
 の善惡を正して其道理と云すものなり ○按今本朝の挿花の  
 風と看るは本の花と挿てハ根締といへる字花と會釋或ハ梅花子  
 葉なきとハ蝴蝶の葉等法て挿るあり 是等ハ其依中へ取る子  
 是らすかれども本の花より字花と高くせず 變ハ二重斬の器子  
 上の口字花と挿て中の口字花と挿る事と嫌尤是程なり 然れ  
 ども傳ありて中子本花と挿上子字花と挿る事 嶺は生る字 谷底  
 あり 生昇る本の風情 是亦自点の一作 其是理ある事なり され  
 ども是ハ新傳傳ある事なり 悉く挿花國會日洗ぬ  
 ○今花子出所ハ字本の性質の品と分別のものなり 譬ハ梅と山茶ハ  
 大きき相以て方らぬ 本花かれども其性質の品と云く必梅ハ若花  
 子ハ山茶ハ自巨小なり 使令の好あり 又紫微ハ大本もわれども  
 石榴と以て主君と一紫微と使令とす 芍藥と蜀葵ハ百葉の方



大きく高く立昇りものおれども芍薬と君花とて百姿と嬋とす  
是其花品骨柄の美ところと斯ハ位階とてとるものおれ能く  
心淨へき事おり是亦嶺と谷との論とハ頗違事おりされハこそ  
主君とてまき梅と使令の山茶とハ席と同せず瓶と同すハ依之  
凡の上主君の居間上段ともまき葛瓶番子梅と擗てハ婢の居  
所ハ平生の一間を隔て依き瓶番子山茶と擗る事これ二瓶番  
て一ぬの花とするおり是ハ瓶史の趣意とて擗花の道の深き  
ものおれ他はまきさる所おり尚前子六根綿の首趣或ハ二室切  
の首趣とハ大子美事おり一旦論すべし悉くハ擗花園番子  
述るおり今まき擗る花をり子限るべし法亦法草悉く  
此道理ももてこそ能く穿鑿して擗子瓶を同すべし

濃淡雅俗亦有品評  
水仙神骨清絶織女  
之梁玉清也山茶鮮  
妍瑞香芬烈玫瑰嬌

濃淡雅俗亦有品評水仙神骨  
清絶織女之梁玉清也山茶鮮  
妍瑞香芬烈玫瑰嬌芙蓉明

芙蓉明艷石氏之  
翔風羊家淨琬也林  
禽頻婆姿媚可人潘  
生之解愁也嬰粟蜀  
葵妍於籬落司空圖  
之鸞臺也山礬潔而  
逸有林下氣魚玄機  
之綠翹也丁香瘦玉  
簪寒秋海棠嬌然有  
酸態鄭康成崔秀才  
之侍兒也

艷石氏之翔風羊家淨琬也林  
禽頻婆姿媚可人潘生之解愁  
也嬰粟蜀葵妍於籬落司空圖  
之鸞臺也山礬潔而逸有林下  
氣魚玄機之綠翹也丁香瘦玉  
簪寒秋海棠嬌然有酸態鄭康  
成崔秀才之侍兒也

やびやかりどの事 修ハ凡修とていやきあまをせおれり亦有品評とハ  
亦其字本品とのもの子色との評判ありどの事 是ハ前子六婢使令子  
おもべき花とも品との出生子濃子あつきの淡くすきもの雅くこやびや



かもの凡俗のいやきもの其性質のまれば上品となり亦是と古の  
美女を譽へ評判ありと云あり其評子曰

○水仙神骨清絶 織女之梁玉清也と八神骨と神八は骨八不  
ねかり水仙の骨とまひひと云事あり清絶八清八すきまらるること

絶八すれらるる清子澄絶て勝るの義あり成程水仙の形状の如  
ちこそあざなを察る其骨精の澄すれ清なるものあり故に骨神

と厳く云あり因る織女之梁玉清子と云あり織女の梁玉清とハ  
織女ハ星の名あり牽牛星と云星と天河をさつて相會る二星の一あり

依子女七女といふ是あり梁玉清ハ其織女の侍女あり侍女ハ即婢の事也  
明胡元機ハ玉童遊覽子織女星

待必堪ハ梁玉清と著あり ○山茶鮮妍瑞香芳烈 玫瑰嬌蕊  
石氏の朝風羊家浄院也とハ山茶ハつむきあり鮮妍ハあざやういさざ

あくるるハ一く疑ハせ美と云事あり瑞香ハ沈下花あり芳烈ハあざ  
そげきものこと云事あり玫瑰ハもみすこと云ものあり嬌蕊ハと云事

ありて給めくものこと云事あり斯の如くまの出生の性質ありて皆美女を譽へて  
色めくものこと云事あり斯の如くまの出生の性質ありて皆美女を譽へて

いふあり石氏の朝風とハ石氏ハ音の石崇と云ハ人あり朝風ハ美女を譽へて  
崇と云事あり羊家の浄院とハ羊家ハ音の羊曇といふ者浄院と云

是も男ぬ美女あり ○梅禽頻婆娑娑媚可入 潘生之解愁也とハ梅  
禽ハ人ごかり頻婆ハ紅梅柳あり娑娑媚ハさざの媚をまめくものと云

事可入とハ入子可といふことあり梅子入つきのあきといふはさかり入愛相  
の能意 潘生之解愁也とハ潘生ハ齊東昏侯の愛妃潘玉蓮

と云ハ美女あり解愁ハ潘金蓮が使令の侍女あり ○嬰粟蜀葵  
妍於難底 司空畫之鷹也嬰粟ハ芥子花あり蜀葵ハ花葵あり

妍於難底とハ難ハまがきかり難の陰と云ハ芥子花葵等すから  
と云る顔をも乃よくそ慮く難くある青枝と云ふかり司空畫之鷹

也とハ司空圖ハ晚唐の入りて鷹雀ハ則愛妃あり晚唐とハ唐  
の代の末よりありと云時といふあり ○山禁際而逸有 井下氣魚云機

之縁翹ありとハ際まといふことあり清白のことあり清く潔き事あり逸とハ  
隠逸と云山中一隠て世を遁て居る人の趣意あり有林下氣とハ隠

者の意持と云山林等一引籠て欲氣もかく際ある人達の趣也  
山禁ハふしあは又と云らハはと云ものあり是ハ山禁の出生性質の清く

潔く隠者の氣もちの有所と云あり魚云機之縁翹也とハ魚云  
機ハ唐の女道士あり道士とハ此邦の修験者の類あり縁翹ハ魚

云機が身子の女道子あり傳曰魚云機容貌逸入美麗也と云而



道人也工詩然非貞女也綠翹工詩好風韻也これ女ありて詩と  
 能上多子絨り風韻と好ハ遠者の首題と好ハあり山禁の出生  
 性質よりハ緑翹の趣子應へりとなり○丁多瘦玉簪寒秋海棠  
 嬌然有破態鄭康成崔氏之侍兒也ハ丁多ハ丁子本あり日  
 本ハ多きもの也其趣と解す瘦玉といハ亦ハ肥て太りたりも其趣  
 のかびて思ゆるものか多し今此邦もててくげおむの等の類ハ瘦  
 玉多きかびて思ゆるなり玉簪ハさわりあり寒きハ花ハ夏用ども  
 其趣何とやとあんとく寒き氣色あるものなり秋海棠ハ和漢通名  
 あり嬌とハ媚をまめく姿態あり成程秋海棠の形状あり然有  
 破態とハ是ハ愁をさぐるものなり成程此三品も然る姿ハ  
 多かるべし鄭康成ハ後漢の大儒鄭玄が事也崔氏才ハ是ハ後  
 漢の崔暹といハ入かり秀才ハ學者の幼年の才智の秀極ると  
 稱する辭あり侍兒といハ其入意の腰元の使令の事あり  
 是ハ字本の出生性質の態を評判して右の名ある美女の安く  
 の素質性質子簪へりあり是も前条にあり此本の草字本  
 の出生と入子とてくげおむるハ是ハ花子限らず汝の字本皆  
 其の性質の姿態あり挿花と教人此情と結案亦ハ有るべし

出生と知ると去事ハ即ハ事なり善此肯趣と稱するハ挿花の首大意  
 慈齋とて満元と名花と挿る事ハなるべしす周る是と挿花の枝  
 葉の肝要事一とす進も未進の輩の遠へりさる事なり

○迎春 和名 ころもい 一名 黄雀児 通名 金腰帶 郡芳譜 腰金帶 花鏡

遷生ハ成四時花記曰春首開花也名毎於花放時移裁出肥則

茂る二月中旬多種也 按日本今人多遷除子多裁小本あり

枝多本以新綠色物多黄花と開二月頃葉と生ず花六瓣枝

の先子枝根ありてころもとて最活す

○瑞香 和名 ちんてりけ 麝囊 紫丁香 草花譜 此外諸書多各名畧

廬山記曰寢盤石上夢中聞花香 醉列一求傳之名臨去附方

奇又諸花中為祥瑞遂名瑞香也

遷生ハ成四時花記曰瑞香四種有紫花名紫丁香有粉紅者

名瑞香有白瑞香有綠葉黃葉者名金邊瑞香有紫葉花

葉厚者多其甚他如桂材有象蹄花似危葉小物耶花

長尾澄紅花白雀花花如雀上元花上元時開花似茶花清香素

色俱名花 瑞不可得也

今日本入聞は多あり修治てりんとくげと唱冬香の開枝の末葉の

花



上子花わり十輪斗（ちりん）聚て再四辨（しよん）ハ一筒葉花の肉白く外紫多  
 葉赤るともつて和依沈了花と呼これハ葉と結す又一種白花之  
 葉長大なる者あり和州の深山子多あり是ハ葉と結南天燭の  
 葉子似て生ハ青く熟る時ハ紅く葉一國依胡耕の本ありといふ  
 大ハ深かり子必毒あり善治て食ハ半日針煩悶す所謂白瑞  
 葉是なり胡耕ハ蔓子生じて日本ハ赤赤き口のかり葉瑞多あり  
 花鏡子一名名結多一本の蔓さ大針本も三腰枝も悉く三腰をり  
 花葉時を同せず冬ハ葉赤く初冬より花とちて枝の先毎子房  
 の如くハ紐と蜂の巢の形子似たり喜子玉て開滿外ハ内黄色  
 花終て新葉と生す柳の葉或ハ夾竹桃の葉の如く長六あり  
 秋子玉て葉落て己子落苗指子存す枝柔ありて結ても折す故不  
 結多と云ふ今依子三腰より七の是ありちんてけの種多あり  
 ○山茶 和名はたき 一名曼陀羅花 花辨 鶴舟 養花辨曰胡耕 冬葉花を折れ  
 遵生八牋四時花紀曰山茶花如磬以外有粉紅者十月花再  
 二月亦已有鶴頂茶如碗大紅如羊血中心塞滿如雀頂葉  
 自雲南名曰滇茶有黃紅白粉四色為心而大紅為盤名曰瑪  
 瑙山茶花極可愛產自折之温那有公突珠九月發花其色清

可與別名甚多以可與玩世所廣者錄之  
 釋名 時珍曰其葉數若又可作飲及得茶名之  
 集解 時珍曰山茶產南方樹生高者丈許葉頗似茶葉而  
 厚厚有稜中開頭尖面綠背淡深冬一葉紅瓣黃葉赤  
 格古論云花有數種寶珠者花後如珠最勝一海欄茶花  
 帶青石欄茶中有碎花鄧獨茶花如杜鵑花宮粉茶花  
 珠茶以粉紅色又有二種紅子葉紅子葉白等名不可勝數  
 葉各不異或云又有黃色者真衡志云廣中有南山茶花  
 大倍中州者色淡綠葉薄有毛結實如梨大如拳中有數  
 種如肥皂子大者

○山茶品類甚多秘傳花鏡史左編郡芳譜等子洋子既あり  
 集解 寶珠茶ハ和名いせつなき又こまてんことよ子葉ありて心中  
 葉す葉と露さず海欄茶ハ花のちいさきものあり和名いすけなき  
 といふ欄茶ハ外の瓣葉のつなきの如く内子細粹葩あり子葉の  
 嬰粟花の如く鄧獨茶ハ單瓣の數つなきあり宮粉茶葉珠茶  
 二名因物あり今謂てこれんつなき等の數あり一棧紅ハ和名あや  
 あといふつなきあり子葉白ハ名の子葉つなきあり即和依公玉つなき







較蓄薇原大而瓣寒心有大红粉色二種出

○金沙羅 和名 さくらんこいそら

似蓄薇而花單瓣色更紅艷奪目

○黃蓄薇 和名 きいむら

色密花大亦奇種也剪枝杆種近廣於昔態嬌韻雅蓄薇之上品也云

○木多

和漢通名

遵生八牋四時花記曰木多花三種花開四月木多之種有三其最紫心白花多腹清潤高紫萬條望出雲其青心白木多黃木多二種以不及也亦以剪條挿種不甚多活以條挿入土中一段墜泥個月餘根長自本生枝外剪條移栽可活云

釋名因身馬兜鈴根為青木多云云此因名有云乃身

馬兜鈴根為上木多と集解に見たり古方中子曰青木多南本

多也是即上木多也后世方書及方中子青木多とあるハこの

馬兜鈴根と指す也

○和木多ハ木多の也此木多と稱するものハ真ハ大車と云ふものあり

此ハ旋覆花と和名小車と云ふ對てらくいゆりと云ふもの小車ハ

似て大なる故ハ大車と名くこれと種樹家まで大木多といふ中

華まで日蓮客と云ふ者也本邦京都は多ありといふ又山海國富

野通及丹波國細野通はこれと栽となり和産中丹波の者

上品とす山城の者と下品とするなり葉の幅五寸計長二尺

計天名精の好一葉すて綴り短色あり黄色と帯る久ハ

葉指て雲奮根より最宜す夏中心より莖と抽て七尺計葉

互生す秋莖既子花と母これ旋覆花子似て大く軸は直ま

並て着大く一尺餘莖花黄心より單葉蓄薇花の如く此根

和木多といふ集解に載て云ふの云木多是なり根長一七半

葉の如く味辛多氣あれども乾すと云ハ赤と云ハ子葉あり

○又呼種蓄薇為木多是ハ木多花也花鏡にも出たり

おそれるれいそらといふものなりと蓄薇は似て刺す一五葉ハ

重金花と開く櫻子の形のごとくこれハ是木多花といふ者

あり遵生八牋は出所の木多花ハ此上品なるものなり前ハ

種する者ハ藥種の本多也按今此瓶は出所の本多ハ

藥種の本多ハ非す即此木多花の事なりされども今

和依木多花といふ者ハ形状少く異り



○嬰粟 和名 けいしのたふ

遵生八牋四時花紀曰嬰粟三種嬰粟小瓣五色虞美人瓣極而增滿國春夾瓣飛動俱以子種在八月中秋日下出宜大肥則明年夏月花茂否不及矣

○又一種麗春花 和名 ひろんそく 嬰粟之類也其花單瓣瓣常帶子飛舞優如蝶翅扇動亦子花中之妙品也

○蜀葵 和名 戎葵 一名 一文紅 郡芳譜 蜀葵紅白紫單葉千葉あり葩の細あり圓あり鋸口と葩の縁のわくきれるるもあり剪絨と細ききれ

遵生八牋四時花紀曰蜀葵出自西蜀其種類似不可曉地肥善灌花有五六十種奇態而色有紅紫白墨紫深淺桃紅紫紫雜色相間花形有子瓣有五心有重葉有剪絨有細瓣有鋸口有圓瓣有五瓣有重瓣一種莫可名法但收子以多為貴八九月間鋤地下之玉者初割其細小芽雜者別種餘畱本地不可缺肥五月繁花莫過於此也

○又一種錦荔枝花 和名 錢葵 一名 錦荔枝花 一名 錦荔枝花 一名 錦荔枝花 一名 錦荔枝花

止有粉間深江一色再耐之也

集解葉似葵葉全粉相心一種小者曰錦葵是即此錢葵也

中華玉鉞葵と云者葉墨葵より小く茎短同時子花を再く錢大との如く淡紅色より紫の縫あり又白花あり花鏡は圓

○紫葳 和名 ささすり 百日紅

遵生八牋四時花紀曰紫葳之外有大紅色此種亦可也

○大紅子葉木槿 和名 むくら 木槿の音轉あり 赤さかふ 古訓萬葉集 一名 瘡子

花 郡芳譜 愛老 同上 潘尼 四字通 麗木 事物紀原 朝菌 通雅

本草綱目釋名檉藪 日及 朝暮花 同上 藩藪 同上

花奴玉莖 時珍曰此花朝暮暮故名日及 槿曰舜猶

僅榮一瞬之義也爾雅曰檉木槿木槿郭璞注云別名二名也或曰云曰檉亦曰檉齊魯謂之云葵言其美而多也詩曰

如舜華即此也

集解宗真曰木槿花如小葵淡紅色五葉成一花朝暮暮欽南

北人家多種植為庭障花與枝兩用

時珍曰槿小本也可種可挿其本如李其葉末尖而無極齒











花小葉上黃綠間道喜水分極盛在栽之可玩也

披今今云云一葉色深綠而蒂必粉著白強厚而有

花莖短有喜末花葉小也此云云一葉又同性于一

あり葉花共長廣大者者者一修時てうるいとい有

種深山草中多生者葉薄而色淺也尖葉也

花白く喜夏より初秋に至る此といふ云云一葉

葉小長く尖色薄緑して清白の斑付あり修時てうるいとい有

細く一葉花葉共五葉長大して葉の遠浅花白夏より秋に花さ

これと云ふ云々のささぐといふ云云の云々もいふ此等五種外

も種類あれとも皆共漢名玉簪の種歟なり今此種史中

云所の蓮花の婢と云すものハ此云云云云といふ云々のささぐといふ二

種と云ていふるる

○芙蓉 和漢通名也但是芙蓉也

本草綱目本芙蓉 披正後入圖經地芙蓉 釋名地芙蓉 圖經本蓮 綱目

華本同上 批本音化 拒霜 特珍曰此花豈如荷花及有芙蓉本蓮之名八九月花始再

及名拒霜也呼為批皮樹相如燈子智之華本注云皮可為素

也蘇東坡詩云喚作拒霜於味猶看素却是霜宜霜蘇

頌圖經本草有地芙蓉云出昌州九月採葉治瘡腫蓋即

此物也

集解時珍曰本芙蓉處有之揮條即生小本也其餘叢

生如荆高者丈許其葉大如桐有五尖及七尖者冬凋夏茂

秋華始着花至秋壯丹芍藥有紅者白者黃者子葉者

嚴耐寒而不落不結實山又取其皮為常川廣有漆色拒

霜花初開白色次日稍紅又明日則深紅也後相回數色

霜時葉花相侵葉陰乾入藥也

遵生八牋四時花紀曰芙蓉者有數種惟大紅白子瓣半

白洋桃瓣瓣芙蓉朝白午桃紅晚改大紅者佳甚不

必分根記在十一月中将嫩條剪下改作二天一條向陽

地上強抗理之仍以土掩至正月後起條遍挿水盆林下

養不活者者即花也

芙蓉といふ蓮花の事あり 此蓮花似一本物ある故日本芙蓉

の名あり今世に多きものあり 葉如桐の葉七尖五尖或九尖鑑



葉より秋花と開く本推花よりハ大なり紅白單瓣子瓣の數  
種あり又一種一葉子七花葉りて再々若かり依子七面葉若  
と不澄紅色甚鋭て英より最奇品なり近來所く多し  
集解は添色拒霜日と隔て色と倍事と云ハ誤なり物理小  
識子曰粵西添色芙蓉花朝正白午後散紅夜深紅  
也とこれ一日中色色の倍ものあり

○秋海棠

遵生八牋四時花記曰秋海棠俗名嬌花深欵甚因英人使  
此口名蘇陰一見日色即輝九月收枝上墨子撒於盆内  
地上明葉茂枝多年有花老根過冬者莖更茂也

○水仙

遵生八牋四時花記曰水仙二種有單瓣者名水仙子瓣者  
名玉玲瓏又以單瓣者名金盞銀盞因花性好水故  
名水仙單者葉終而葉可變用以盆種上几其法子云  
五月不在去六月不在房栽向東籬下花再葉多五  
月取起以入罈浸一月六月近窻所置之七月種則有花  
甚不虫也余曾為之試驗正抗之近江水受葉戶成材

種者多技不花味常用世法也惟去近海鹹則花茂去  
之日本又泉州なる者花早八月頃より花再とり北國  
妻玉玉て花よくとり單瓣の花銀の盞子金の盞と載るが  
如き故に金盞銀盞の名あり子瓣の花子盞の形あり攻子玉  
玲瓏といふ又子瓣の花は綠色を帶者あり不英依子とち  
といふ者あり不實亦亦花あり越後國の産と去來見挿花  
用者子瓣の類皆宜く以惟單瓣の者楊為上

不能一一比像要之皆  
有名於世柔伎織功  
頤氣有餘何至出子  
瞻榴花樂天春艸下栽

不能一一比像要之皆有名於  
世柔伎織功頤氣有餘何至出  
子瞻榴花樂夫春艸下栽

不註一一比像一ハ前子如く諸婦の花皆各品評の評判あり  
數多事ありバ一一比像うんがて連綿を能すめいさいハ必兼ぬ  
とりふことあり○要之以有各於五ハ要之ハ其教多き花  
あれバ一一比像評判する事ハ亦不因而其中の所要する花と取















以こするあり是其好事也執心の深きと云なり  
是總て凡俗の入道に侵り沈酔没するやてやくこなき雜  
談泄言譚と一或ハ利欲理屠淫日月日とおろし面能可憐の  
顔色空貌風俗殘者さきて狂ひ燥くると皆不風雅の至  
極なりこれを必何事と云ハ其を益行する暇もつて好事  
の藝術其外法事已ハ務べき事は意と止く性命の死生  
ともうけて執執んせハ何等の六ヶ敷技もこれと得ずんハある  
べからず何等の忠孝くるとも立ずといふ事あるべからず益の益  
ある事も高名美名とのこす事も成ずといふ事あるべからず  
月日と益益ハ明暮す輩多一先陰流氷子等一瞬の陶  
あるべからず豈意ともちひさるべけん哉

錢奴ハ利於子執り運の輩といふ事ハ專錢もつけく無理  
貪利と得る事のこと所作とする者といふ事ハ富貴ハ仕官  
の事公は仕る人と云費ハ高といふ字ハ原商賈の事あり  
之と富貴熟字と云ハ何の能もなく功もなき人の才覺を以て  
生理子給任て昇宝出世の俸祿と貧者といふ事ハ即宝を  
賣子等一き改官賣人と云意あり一憐れんと其志所の技  
費入の如くもんとや左核の無風流なる事と云ハ家きと云事あり

古之負花癖者聞人談一異花  
雖深谷峻嶺不憚蹶蹶而從之  
至於濃寒盛暑皮膚皴鱗汗垢  
如泥皆所不知

古之負花癖者ハ花を好このむこと甚しく執心深きと云癖といふ其花と好の癖と身は負て居る者ハといふ事あり。聞人談一異花とハ一異花とハ一異花とハ一より美なる珍敷花といふ事あり是ハ入るべき所何所其愛を盡する珍敷花の一種なりといふ説とするをハ深谷峻嶺不憚蹶蹶而從之とハ深谷ハ深き谷といふこと峻嶺ハげげく聳立つる山といふ事あり蹶蹶ハおろろろと下る事あり不憚とハ懼ずおろろろと下る事あり











洞口人矣尚復為人  
間塵土之官哉

尚復為人間塵土之官哉

慈非真好之也と八石公と八老宏道中郎先生の別稱あり  
閑居と八閑ハあづちあることと出事と閑居と二字熟してハひま  
多て静と閑居と引籠て居ると出事と閑居とあり彼と閑居と孤癖と閑居と之慈と閑居とハ孤と閑居とハひま  
と出事と閑居とハひまと閑居とと割す閑居と閑居として孤癖と閑居として居ハ慈と閑居とあり此癖と閑居と  
慈を挿花と閑居とて破と閑居とて少ハ物坐と閑居とのゆきすると出事と閑居とあり此癖と閑居とハ  
善交と閑居と石公中郎吾と閑居と花と善ハ聊と閑居と山花と閑居との好事と閑居とと出ハ非と閑居とずと  
閑居と閑居としてひまと閑居と居る閑と閑居との孤癖と閑居としき慈と閑居とと彼と閑居とのと閑居とありと出事と閑居とあり  
真と閑居とハ善交と閑居と子慈と閑居とこれと好と閑居とハ非と閑居とずとこれ前と閑居とハ出入と閑居とのと閑居とハ深と閑居と為と閑居と  
給と閑居と子尋行と閑居と狂と閑居との好事と閑居との僻と閑居とと出老と閑居とハあと閑居とはとあり是ハ老中郎先  
生と閑居と自罪と閑居と下と閑居との辞と閑居とあり  
○交と閑居と便と閑居と其と閑居と真と閑居と好と閑居と之と閑居と已と閑居と為と閑居と桃花と閑居と洞と閑居と口と閑居と入と閑居と尚復と閑居と為と閑居と人間と閑居と塵土と閑居と之と閑居と  
空我と閑居ととハ桃花と閑居と洞と閑居と口と閑居と入と閑居と近と閑居とハ蒙と閑居と求と閑居と見と閑居と行と閑居と武陵と閑居との漁父と閑居と  
漁父と閑居とハ非と閑居と雅と閑居と味と閑居とのと閑居とあり桃花と閑居との流と閑居とれ来と閑居とと若と閑居とく行と閑居とハ深山と閑居との石川と閑居とは  
入と閑居とりりと閑居とに大と閑居とある洞と閑居と口と閑居とあり漁父と閑居と即と閑居と其と閑居と中と閑居とハ入と閑居とり遂と閑居とハ仙境と閑居とといふ

仙入と閑居と子遂と閑居とて三日と閑居と還留と閑居とて帰と閑居とハ人間と閑居と界と閑居とハ己と閑居と子三年と閑居との月と閑居と  
月と閑居とを纏と閑居とて帰と閑居と来と閑居としとあり  
是茲と閑居と子出意と閑居とハ表と閑居と中郎と閑居と先生と閑居と其と閑居と吾と閑居とをと閑居と真と閑居と子と閑居と事と閑居とことと閑居とはと閑居と花と閑居とと好と閑居と  
しゆと閑居とハ己と閑居と子早と閑居とく桃花と閑居と洞と閑居と口と閑居との因と閑居とハ遊と閑居と居と閑居とる仙入と閑居とも為と閑居とべきと閑居となれと交と閑居と便と閑居と  
まてハ若と閑居とく尚復と閑居と何と閑居とこのと閑居とこと閑居とく入と閑居と閑と閑居との吾と閑居との入と閑居との閑と閑居との塵土と閑居との塵土と閑居との中と閑居と  
は交と閑居とり居と閑居とて官人と閑居とと為と閑居とて居と閑居とべき我と閑居とといふことあり是と閑居と中郎と閑居と自罪と閑居と下と閑居との  
とる文章と閑居とあり

十一 清賞

十一 清賞

茗賞者上也譚賞者  
次也酒賞者下也若  
夫内酒越茶及一切  
庸穢凡俗之語此花  
神之深惡痛斥者寧  
閉口枯坐勿遭花惱  
可也

茗賞者上也譚賞者次也酒賞者下也若夫内酒越茶及一切庸穢凡俗之語此花神之深惡痛斥者寧閉口枯坐勿遭花惱可也

清賞とハ清と閑居とハきよと閑居と賞と閑居とハもておそふと續と閑居とこれハ



挿花とかがめ樂むは散くありて清と修きとの分別あり徳分清  
 賞すしき宴也。○若貴者上也とあり。○若ハ茶なり若と喫て花と  
 この一む者ハ上也とあり。○潭賞者次也とハ潭ハ風雅なる徳分  
 潭とする事より挿花と賞観する事風流なる雅しき潭より樂を  
 挿品より次也とあり。○酒費者下也とハ酒ハさけり酒と飲え  
 花とのむ者ハ尤下品也好する事あり。○善交内海越茶及一  
 切庸釋凡俗之徒此花神之深意痛斥者とハ内海とハ大同より  
 必る酸酒より酸酒ハ強き酒なり越茶ハ氣地より必る茶より飲よ  
 番茶の事あり一切庸釋とハ庸ハ凡庸とて尋常者並之の通例  
 の者より庸釋ハありきありけり善交凡俗之徒とハ俗ことごと  
 刻を考へとする事あり。○寧手口杜望勿遭花惱可也とハ寧  
 とハいつそといふ如く一週ハものといふは影て居る事あり杜望とハ  
 杜ハかれると澄かれ本の立ともさく影て居る事あり望望とハ  
 とありあり。○是去意ハ花と賞し觀し若と用ゆるハ上品也さ  
 潭賞し雅き風流の修とて此め樂む者ハ中品より次あり  
 酒と飲て賞する者ハ下品あり成祖茗と變老ハ風雅とて  
 必る風流ハ陥る事あり酒と飲者ハ始ハ風流ハ似て既ハ益達ハ

次第ハ不圓流よりて機者さまて大凡俗とあるもの故ハ酒費を  
 下也とする若夫内海越茶の類ハ下品より大飲する凡俗者の事  
 あり清供ハ入へず及一切の庸釋尋常の機者く釋と凡俗  
 の語望ハ公事出入勝負の徒或ハ登利利の潭又ハ人の若意の  
 導者以釋一凡俗の語あり左枝の事ハ此花神之深意痛斥  
 者あり依之左枝の釋意ハ風流なる凡俗の語と花神の前  
 まで去んたりも寧いつそのこと口と閑く影て杜望の種ハ杜望  
 然然とて若て花の惱は遺こと勿ハある人可也とあり是挿  
 花も見挿樂極く喜りれを以花の爲ハ惱ありすや花と挿る  
 事ハ此花の事より此花神の類と見る事花と挿入すこと其学  
 木の出生性質と出し或ハ使令を以て其花の生質意態と  
 露す今茲は去所ハ挿花と観る又ハさく其挿方の類と云され  
 ばこそ学木ハ清情なるものなり其花の性ハ修て執申一後  
 行義を修て上品より挿へき事あり然と凡俗の意ハ修て学木  
 性質とも考はず無理なる徳分繞出さく此とつけて機者下品  
 子挿てあつて上花も挿殺者あり此花神之深意痛斥者あり  
 是以凡俗の度より風雅の道と知さる者の所作あり是技藝の



肝要なる所子て此章別て意と止べき度あり悉く挿花園會に出  
夫賞花有地有時不  
得其時而漫然命客  
皆為唐突

夫賞花有地有時不得其時而  
漫然命客皆為唐突

交賞花有地有時とハ賞花とハ花と挿て眺め樂む事とハ  
有地とハ挿花と置其藝所ありと云事ありこれハ譬ハ此邦  
今挿花を賞眺挿花ありて樂む事有り會と云聊休あり  
今別於臺中挿花之花寄其來久矣蓋宋時始花史云  
宋南後後端今日以大金執過挿花不插花子繞殿園是  
惟後家殿堂之佳處非他處之雅也此ハ雅也ハ  
おとれも花寄の發起するべし今專花寄と云事執挿  
て樂む事あり其時ハ瓶の盡所其花の形態よりハ  
の器を別て因る譬ハ床前座脇窓欄下隔平望等と其花  
の態より又花を寄り瓶器は縁て盡所と云定る事あり  
を今席態の趣向と云るといふ一坐一席の連綿の佳意を  
趣向す譬ハ大なる花の次ハ次ハ次ハ花寄き瓶の次ハ次ハ次ハ

集も無く多々無く怪しく懸くは情なき花と挿て何の眺も  
ともなるべきや或ハ又嵐暴に遇時候の不順の氣は遣て嘆  
花出ま一そこさい一花さとの支難者と挿花とても是ハ不  
あるもの日々挿花ハあるべし別而雅あるは皆凡俗の事なり  
花を四身共者有者それとも十月頃挿て試るに何となく  
逢ふ心地して爲一か挿て試るなり○不得其時而漫然  
命客皆為唐突とハ漫然とハさうり外より来る人と客ハ命  
このハ命客とハ客ハ命客とハ客ハ命客とハ客ハ命客とハ  
ものとおすむる事あり其客は命客とハ客ハ命客とハ客ハ  
ある事を客は命客とハ客ハ命客とハ客ハ命客とハ客ハ  
思寄する所へ突出すの義あり俗言ハ藪々挿と突出すといふ  
是前子去ぬく時あり挿花と挿て客は命客とハ客ハ命客と  
花辛夷藤花の類又十月頃燕子を寄漫然と挿てハ去ぬ人  
逢ふ者挿て眺も面をこもさきものなり是と皆為唐突といふ  
もかく藪々挿と出さる挿て眺も心もちといふ事あり又同好の  
花と挿て眺も前子去ぬくついでに寄集時を約て寄集事あり  
其時を待すといふ漫然と云は集てそれ花を挿て多く是を見



樂事といふは唐突とて教へて指と標出しるめえ興も樂も  
有へうは是前より趣向に去者と定めて集るるものついでより時と  
宿むいふ合へき事あり

○明朝と本朝ハ其違ありて中身又ハ家のうち床を張り置と  
うに床の向といふも一皆敷瓦より一切の物を置る上は並置あり  
此處と元と去卓と云ふ挿花も此凡のうに置事あり是ハ家の内限  
以外に庭も或ハ山亭とて亭坐敷等も此凡卓と持行て挿花  
其外合敷等も此上子壺て候む事あり是前より置欄之漆卓と  
て縁に欄干と附る卓あり又懸幅あるも壁よりけ或ハ外も樹の枝  
等も懸て風除あるもする趣あり或ハ風体といふものありて風はひつ  
鳥の休ぬ様よりる者ありされば此来は花を賞する云地と時節と書  
別より其趣と知るに挿花の事より非ず挿花は花の候子と魚  
より趣ありとも皆右子云ぬく時より候てハ外も花と挿てそのむこと  
其云地の風休む可也といふべきなり

寒花宜初雪宜雪霽  
宜新月宜暖房温花

寒花宜初雪宜雪霽宜新月宜

紅花の脇ハ冬き花或ハ夏花又入る者あれハ此は序者あり或ハ不同  
して不等は前より置瓶忌兩對忌一律忌或行列又枝葉相若紅白  
相配省曹塚下樹蔭門華表也とありて是花の齊整すると齊整せざる  
とのを別あり花之所謂齊整以參差不論意態天然といふ是花一瓶  
の形態耳あり一席の連綿も此意趣を多る凡而席上一坐の  
連綿の美意の事ハ萬道皆同事也是風雅之道の身一なり因而瓶  
の置所より其場所は應すき挿花あり又挿花の出来よりて  
其態は應すき置所あり是と即有地と云ふり總而此瓶使中は瓶  
所と挿花明朝も其項挿花流行して同好者集會て花と挿並  
媛と見たり今此部に入て集會て花と挿並る趣は美事あり  
は有時とハ其時節といふ交花と挿並るは其趣合る朋友五七人集會て  
花と挿並る候む其時節の若意あり譬ハ和朝も今持茶とする  
入朝茶正午飯後夜話等其時と通而約するこく花も其趣  
時節あり又もの子寄の序ありて譬ハ同好の朋友亦集て花と挿並  
其寄へき時より上巳日七夕日或ハ何夏の祭夜宮等と可應の結  
時節を得て瓶花と並樂へき時節あり是と時節と云ふ  
亦花も時ありて其時節をさるものを用す譬ハ水仙の花ハ八月下旬







く和漢亦多し... 五ハ瓶花と賞の輩も物豆の是兼ぐ... 同好の朋友五七人寄来て... 是前より趣向と立るの序... 皆能考て味ひ... 温花宜晴日... 宜軽きと八餘寒次... 是ハ寄籠り... 星花ハ宜雨後... の花あり宜雨後... 雅潭趣向... 夏の空敷の... 陰と八佳... ありひびの... 家内之敷瓦... あり席と... 竹下あり... 皆是夏の趣

涼花宜爽月... 宜爽月と八爽... 詩人秋秋... 友を誘て... 秋の夕... 斯る折... 宜空階... ちと去... 無き後... 本邦茶... 曉石... 秋ハ... 瓶花と賞... づら... 一これと携... 彈して瓶花



風興曉深く人夏とさくらべ一儼然と殺々掃と突出してハ眺も無  
興も奇く至風程なるる多きなり

○今茲子擧る四季の時節ハ年中マの便宜時を以て擧て之と  
手鑑子出引書マ其のあり是子多き一て神花と好夏他余なく  
執花一色子執ハ深き者既マ其色の依りあるに於てハ其同好者若  
傷迄の季と寄りて勝て氣象の高大なる輩一祥と携て客とある  
リ之子多るに五六ハ秋ハ何愛其は冬玉ハ何まに佳地と擇ミ使  
宜時節の序と索むべきなり也

若不論風日不擇佳地神氣散緩了不相

若不論風日不擇佳地神氣散

屬比與妓舍酒館中

緩了不相屬比與妓舍酒館中

花何異哉

花何異哉

善不海風日不擇佳地  
神氣散緩了不相屬比與妓舍酒館中  
花何異哉  
花何異哉

後後ハ何のむと此字花の神氣象也散緩と云夏なり了不相屬比とハ了り  
ハ何のむと此字花の神氣象也散緩と云夏なり了不相屬比とハ了り  
館守花何異哉とハ妓舍ハ女屋なり女郎屋の夏なり酒館ハ酒屋  
なり居酒屋料理茶屋等の夏なり此其すどハおそくると云夏なり何  
異哉と何異ハおそくと云夏なり○此云意ハ善其風の時節とも不備ハ  
まを佳地にも置所にも不擇吟味もせずハ花の神氣も散緩て了り相  
屬比と何の興もよく吟味もせず是と譬てハ妓舍酒館中等の花  
子以是ハ何の妙も異ハか一異哉とあり  
是ハ花と云不幾數の美人は譬て今其教の花と云以て妻とも奇く寵愛  
媛なり然も通例の女もく佳人の妻と有りて度子居る人ハ了り多  
とも多女とも呼る人何れ美盛よき女もく妓舍酒館中等の果一  
震子在てハ通例の女と有りて美人とも美女とも貴すべし遂凡俗者と  
枕席と同一く坐浴と送る可惜事也花も其如く譬ていも通例の  
花もく其序よき時よき而て風流風雅の能者の入の女もかりて其花  
子相屬すよき金屋とも云べき執器も持て其花子相屬すべき佳地のよき  
場所も置て了り美人の名もあげ花をも云べき事なり是佳花ハま  
格別よき上も好見ゆる様も持たすべき事なり然もと云何佳佳き



上花子ても其無風流ある凡俗人の身子羅て鼻き瓶器子挿らきく或ハ其地  
 不相属なる挿りて右勝手の床間子左揚子子挿り或ハ懸幅の畫子  
 相属せし又ハ大さぬる器子小き挿りて花々瓶器子負たり或ハ又瓶器の形状  
 子因る花の挿りて移る移らぬいの澤や敷とも辨くす漫然子花の挿り  
 意を入る漫くそき大俗なる挿姿等皆花を鼻挿すや是別花挿姿  
 散後して子遠く不相属是なりも亦と云はば姑書倭儀中著の罍女と為  
 て終り鼻挿凡俗者の室房子入り可也  
 今此秘史中よふ所の後凡俗入と云ハ此挿花の本道の道理を云はし  
 技術の下なる人も指しおかり警位上入る人も又万子いりき入る人も  
 此道の本意を知らば此道は於て凡俗入り紙令下級の者子て此本道を  
 明て技術の能き堪能の者と風雅入るも好意の御人も云べし是此秘  
 史挿花の技藝の大旨あり今此本道を明て教と云ハ此其人と挿  
 其技術と學びいさふべし後能きことあり此本文と感すべし  
 ○右此述滑所の藝意國字と云通依子書とりとも意味保き所ハ  
 此道上手堪能の者ありてハ分別つらば述も来熟の初心の老子ハ  
 流及ぶとき事あり總而此秘史中の注する所悉皆風味深長  
 ありかゆいし得と熟讀して修し勉る後既子能き名人堪能の境

瓶史國字解卷之三 終

瓶史國字解卷之三



瓶史國字解卷之四

陳雲齋 桐谷鳥習 註解

十二監戒

宋張功甫梅品語極有致余讀而賞之擬作數條揭於瓶花齋中

十二監戒

宋張功甫梅品語極有致余讀而賞之擬作數條揭於瓶花齋中

監戒とハ監ハかんカウと云ハ字ハ花の決意よめこぶ夏と摩しめられ哀む事有  
字戒ハいまゆると云字是ハ花の決意よめこぶ夏と摩しめられ哀む事有  
去るが如子羨子監戒と云ハ之と條目とすると云夏なり  
○宋張功甫梅品語極有致とハ宋の立子張功甫と云人梅品と云書物  
と作出さうり瓶花の控影とを別して書く花の夏と書る書物あり其



梅品の語極有致と、其雅趣有て取用子之りと云、其なり。○余讀而賞之、余ハおきなり、中印自其書物、讀其甚佳きとて、賞一、かめ、其なり。擬作數條、揚於瓶花齋中、ハ擬作トハ擬ハかそ、之を、刻作ハつく、係ト云字多り、數條ハ、數ヶ條の條目書ト云、夏多り、瓶花齋中、ハ花と稱多て、將ハ一、肉の中、ト云、夏也、獨ハ、わくも、割、其條目書と、花と稱、座敷の中、舞、等、張出、置て、帯、忘却、せざる、其、此、邦、格、古、所、等、の、法、度、書、の、類、なり、是ハ、表、中、印、先、生、余、張、功、甫、が、作、る、梅、品、ト云、書、物、と、讀、て、見、る、處、に、其、語、粗、く、甚、佳、き、没、有、て、之、ト、又、貴、美、一、此、梅、品、子、擬、へ、く、數、ヶ、條、の、條、目、を、作、る、瓶、花、と、置、く、齋、中、の、壁、に、張、出、一、獨、懸、一、と、あり、其、條、目、ハ、

花快意凡十四條明窓淨室古鼎宋硯松濤溪聲主人好事能詩門僧解烹茶薊州人送酒坐客工畫花亦盛開快心友臨門

花快意凡十四條明窓淨室古鼎宋硯松濤溪聲主人好事能詩門僧解烹茶薊州人送酒坐客工畫花亦盛開快心友臨門

手抄藝花書夜深鑪鳴妻妾校花故實

手抄藝花書夜深鑪鳴妻妾校花故實

花快意凡十四條と、中印先生梅品の語、擬て作所の條目なり、花快意とハ、花の爲、まろ、まき、事、と、集、り、十四、箇、條、は、先、こ、云、夏、なり、○明窓、わき、う、なる、窓、の、い、夏、なり、あり、意、の、許、等、が、花、と、置、き、宜、なり、總、白、梅、花、の、坐、敷、ハ、あ、る、き、と、傳、く、す、是、亦、一、條、なり、○淨室、淨、ハ、清、淨、の、淨、の、字、を、清、く、潔、き、事、室、ハ、い、ま、なり、小、坐、敷、なり、是、淨、く、奇、麗、なる、小、坐、敷、と、云、夏、なり、是、亦、二、條、なり、是、ハ、今、此、邦、も、花、と、稱、る、坐、敷、又、茶、湯、等、す、係、一、箇、も、吃、身、一、掃、除、と、云、入、る、なり、凡、而、稱、花、ハ、其、坐、敷、の中、ハ、論、述、浴、衣、等、ハ、玉、ち、色、少、も、塵、埃、の、無、類、子、淨、寄、簾、子、掃、除、す、き、夏、なり、花、と、稱、は、藤、も、花、臺、と、候、く、け、又、ハ、臺、の、下、或、ハ、器、水、中、等、塵、埃、の、あ、る、ハ、甚、見、苦、敷、批、伝、もの、なり、意、と、用、ゆ、き、夏、なり、○古鼎、古、ハ、ふる、き、鼎、ハ、か、な、を、なり、是、古、物、の、鼎、と、云、夏、なり、者、三、條、也、○宋硯、硯、ハ、す、り、なり、是、ハ、宋、の、代、の、硯、と、云、事、なり、○松濤、濤、ハ、た、は、り、なり、松、風、の、響、濤、の、音、ハ、さ、ら、と、云、者、五、條、也、



○漢學 漢ハ多小と云字是ハ溪の流の水音なり凡而松風の響細溪川の  
水音皆森密なる中子心身と澄一瓶花の雅趣ヲ合して其佳ものあり  
花の爲にもよめたる一糸六條あり

○主人好事能詩とハ花と挿る席の主人ハ好夏の風俗入る詩と上り  
子種ると云あり是事七條あり是ハ今此邦にも挿花の爲に他へ招れ  
或ハ亦同好者寄會て花と挿る之を娛み故有て他家とかりて催す時  
其家の主人ハ不風俗の俗物と挿花の見様も知れ凡俗なる理宏博  
等しく雅趣は應されハ甚心勞ありて自娛一と云又其主人花ハ挿花  
とハ一俣ある好事者少く詩と雅り或ハ教と取て俱ハ好古の雅博等  
あハ一入席上も面を無ありて樂之深々人々

○門僧解意茶とハ門僧とハ中郎先生の門にまぎく注來する俗者  
茶と烹ることを解すとハ能合熟して居ると云意なり此俗茶の煎法と  
能く合熟して上り也と云事なり是事八條あり是ハ上品茶と能き加減  
小煮る量ハ甚六ナ敷ものあり別而中華中茶と烹る事の斟酌ありそ  
おぬ敷なり然ると中郎先生儒學の門人何社も有へられと花を挿る時  
茶と煮度ハ倍々久ハ面を以て練玉と熟するところやすき倍こそ  
雅佳なり故に倍々出せり是風俗の極意感味餘情保ものなり

○荊州入遠海とハ荊州ハ地名なり是ハ海と造り出す所即此邦の池田津  
丹の歎あり其荊州の入花席一折能海と送身一あり是事九條あり  
○坐客工畫とハ花の坐す来る客ハ風俗人々画と能工人多くと云  
これ亦十條の目あり

○花亦盛拜快心友信門とハ花亦ハ前ハ挿る如く諸本諸子の惣名  
り凡而の本草の花と云夏快心友とハ心の合て熟する友達ののり也  
信門とハ其意進の友訪來て音信なり是ハ挿置る花亦の今と感  
再敷く時は其心の能合する友々門に信來ると云事あり人情ハ唐も日本  
も一般今此邦も花と挿る時ハ以て其花姿態整ふるはこれ  
一又見舞人も奉意取ると思ふ所ハ亦やハ無風俗ある俗者入來りそ  
挿花ハ眼もやハ理屈澤々としておけくハ挿花等甚小技にて合  
無用の物ありと云ことす係輩もあり大ハ雅心と云小事ありあり然と  
其愛折能心合する友達の考も同好の備有て花術も上名ある人來  
俱く日花と眺め巧拙を論して雅博時と後すこと美は興酬て娛と  
芝草花亦或ハ固時快心友門に信打と云あり亦十一條あり

○手抄藝花書とハ抄ハ抜粹と訓字も抜粹とす係夏ありこれハ  
主人手花と藝る法と書く書物と抜粹とすと云夏あり十三條也



○夜露鏡傷とハ鏡ハ酒と入る器あり日射す鏡子等の類と云ふ  
 是ハ花と眺の夜と更一隊文字とて無も精盡るんとす序頃後等出え  
 と鏡の傷する等物る盃盤と持出る者損破無と引返る面公置る  
 夏より是れ十三條の目あり是れ此邦の的する夏あり同好者或  
 五三入寄會り瓶花と娛む子既子衆更深更この少き煙火も後後火煙  
 の火より消滅て甚吸き火も是れハ妹女子寒さハ強煙勝手も好女も  
 引返りて風流なる夏あり  
 ○妻妻校花校愛とハ奥方あり女房あり妻ハめかけたり是ハ女あり  
 校らんかると云字よりこの考へ合ると云義あり是ハ瓶花と娛む者へ  
 愛や寄寄り出たり花と樂こく此花ハ面公一是ハ何れか云て其花  
 の収美と校合風流の憚をす家事あり是亦此邦の的する夏あり何  
 らも女子ともハ種花や待會休以等ハ好まぬものあり火批ハ淨瑠璃三弦  
 等の物と思はば故は同好の心易き客來りても兎角勝手方ハ心配  
 無も寄寄り出たり然と妻や妻等出たり花と娛む校愛と校する等  
 真ハ風流なり客方も心打解て心配せはひくは興ある事ある  
 是の三も亦城保く人歎是れ亦十四條の目あり

花折辱凡二十三條  
 主人頻拜客俗子闌  
 入蟠枝庸僧談禪牕  
 下狗聞蓮子術術歌  
 童弋陽腔醜女折戴  
 論阱遷強作憐愛應  
 酬詩債未了盛開家  
 人催算帳檢韻府押  
 字破書狼藉福建牙  
 人吳中贗画鼠矢蝸  
 涎僮僕寒令初行  
 酒盡與酒館為隣案  
 上有黃金白雪中原  
 紫氣等語漢俗尤競

花折辱凡二十三條  
 主人頻拜客俗子闌  
 入蟠枝庸僧談禪牕  
 下狗聞蓮子術術歌  
 童弋陽腔醜女折戴  
 論阱遷強作憐愛應  
 酬詩債未了盛開家  
 人催算帳檢韻府押  
 字破書狼藉福建牙  
 人吳中贗画鼠矢蝸  
 涎僮僕寒令初行  
 酒盡與酒館為隣案  
 上有黃金白雪中原  
 紫氣等語漢俗尤競



散賞每一花開緋縵

雲集

雲集

字辱をらうめると譯是ハ花を折辱める変と七と條目は出らると云  
凡二十三箇條ありと云り

○主入頻拜客とハ其花と挿る席の主入ハ物より富貴ある客がき  
こまハ阿波面後より頻々拜し貴ひ尊崇る事甚敷有様と云是  
挿花の辱らうと云物より嬌の愛と云り 身一條あり

○後子園入簪枝と後子ハ凡俗人乃事あり 簪枝ハ簪ハ  
と云字枝ハ多と云字あり 簪り出りくねると云意より直ちぬ事也  
園入ハ園入まき霞へ物ま入る事あり 是ハ凡俗の輩瓶花の本道乃  
趣と合點せしむ彼簪出くねる様一枝の花と雅趣と心淨齊整なる

雅正の花の中へ園入へ給入る事と戒めたる身二ヶ條あり  
○富僧珍禪とハこれハ唐ハ凡庸とて尋常の者の事なり 俗ハ出家  
沙門の義其庸のやと俗僧ハ花席に於て禪理等と談すと云変  
是亦甚雅趣と云ふて大ニ花林と辱しむると云変なり 身二條あり

○惣下狗聞とハ惣ハ意なり 狗ハハのこなり 惣の下と云狗の聞と云變也  
是據なき変なれども甚暴暴教風氣ある者なり 身一條あり

○蓮子櫛櫛教童とハ櫛櫛ハ巷と云変なり 胡同友即巷なり 教童ハ  
此邦のかけま野郎の類なり 蓮子巷と云教童ハ甚俗なる者也 身五條

○弋陽腔とハ弋陽ハ地名なり 腔ハうらみあり 是ハ弋陽と云霞と云俗  
人の遙流行奇なり 日本中へ六 潮来節越後神供等と云類也  
これ亦六條あり

○醜女折戴とハ醜ハこわきと訓字よりこれ容儀忌き醜き女と云変なり  
其醜女が花と折て取まうと云意より事なり 是亦七條あり

○海所遷とハ所ハのほると云字遷ハうつりるに訓字より官職位階の昇  
遷の義即立身出世の事也 花席に於て青雲の彈雅趣は非ず甚  
不風流なり 花と辱しむるなり 亦八條あり

○強作憐愛とハ憐ハあわれむといふるに訓愛もあはれするもそれと讀  
是入に交接とする外 面斗もんせいの様子取成内心ハ不實の事と  
して親切の心なく表をきかむりの軽薄なり 是と強て憐愛とする  
云かり筒狭の又ハ徳而世中ハ不嫌ハ事なり 別而花席雅正の堂  
ハ甚嬌ハなり 是亦九條あり

○應酬待債味と云ハ應酬待とハ持と云子寄て紙る時乞の入り



○和と作て増又此方より押返て再和と作て増又此の入り再和と  
作て増如是五度十度より五と注来し互に取遣と為事と此と應  
酬の詩と云より債ハと云ると刻て元五債と債是すと云意の字あり  
詩債とほききハ其五債の核子得來の詩は借り出來て其債り未了と云  
更なり此應酬と云更晚唐の頃より稍始りて宋元の間ハ天子盛なり成  
明の五多ハも錢りてありあり是ハ甚依あることとて無風流なる事也  
是事十條あり

○盛開家入催算帳とハ花の盛に用く時家入算用の帳と吟味す  
る莫を主人に催是する事あり是十一條あり此花の盛に用時とあるハ  
花と神盛る家中娯樂の酬と云更なり其時算用帳等持出すハ尖ハ  
雅趣と消し與と失不更なり此乳無風雅なる更なり

○換韻府押字とハ韻府ハ詩と作る意ハ韻字と集る書物あり  
換るとハさると譯し食法する事あり押字とハ韻字と撰る更なり  
詩と作る時入用の韻字繰出す譯あり然に花席等より其韻府の  
書物と換し韻字と押す更甚依より無風雅なり十二條あり

○破書指藉とハ根ハと云ると漢字藉と云ると譯する字あり是ハ  
破書とハ古書物ありの更其書物指藉と云るとる取散置る行むき也  
是亦枝風素無風雅なり十三條あり

○福建牙入とハ福建ハ地名あり船津と云高容多く群る繁昌の地也  
牙入ハすあいと云事なり高貴船同座之財物と揚る時又同座より  
船積込時等中より五法と云保護と譯て著す者なり日本の中實  
小揚等の類あり是十四條あり

○吳中贖画とハ吳中ハ吳國の事あり贖ハおせと讀字贖物偽物  
更なり吳國ハ贖画を存出す處より名代あり居る所なり依而吳  
中の畫畫と書しあり是ハ偽物等何種表結搆子名有及人の画  
等懸ありても贖物と云ハ甚淺と云すて主人の心底思はれて恥辱しき  
更なり是事十五條あり

○鼠矢とハ鼠ハねずこなり矢ハ糞なり總而鼠暴ハ毒物すて金物  
少くも何と云も腐らすものなり水は入く花をも枯す鼠尿も毒  
ありて瓶罈等は穢てハ色變りて元は復す尖は毒也事十六條あり

○蝎とハ蝎ハ蝸牛なりかばありの事なり俗まのばありと云  
活ハこれなり口より出る津液なり是ハ彼蝸牛ハ口より涎と出し  
這歩る痕がく死り洗ても容易ハ去す甚息苦敷者なり及  
瓶罈等ハ破る事と云むなり是十七條あり



○僮僕優蹇とハ僮僕ハ僮ハ鼻一と澤僕ハ下部石仕者の夏あり  
優蹇とハ方傳の文字より足と踏波て歩行せんさいなる夏あり是ハ  
彼僮僕の優蹇者より立歩行て主人の意と成るとも夏也十八條  
○令初行 酒盡とハ令ハ此邦より彼令ハ口會滑籍等と云く酒と行  
飲す。氣味のことあり酒令と云く其仕役等書著する書物等も  
ありて大分巧拙のある夏あり 其酒令の初る也い酒盡て仕弄夏也  
是甚本無なる夏あり 是十九條あり

○與酒館為隣とハ酒彼ハ前子十一章清賞子云岐舎酒彼中の趣  
より居酒を煮賣酒屋の事あり 為隣とハ隣ハ隣あり左様の泉  
煮賣酒屋等と隣合て花と挿るハ此方の佳美人と修者より交むる  
意より花と挿る 起ると云者也是二十條あり

○紫上有黄金白雪中原紫氣等語とハ此夏を空宮中系紫  
等等の語よりハ明季干結と云又又王元氣と云又等其頃の學  
あり其頃七才子とて學者の名高きもの七人有りる 其中の二人也  
北干結元美と此輩の詩の白浦子且又用る語あり。海内黄金  
見意氣。人間白雪看文章。○中原紫氣波江東等と云者あり  
是其頃の詩同あり 然る者中郎ハ晚明人一人一派の學同と云

天下人を驚く者あり故子干結元美等々風の學問と雖も彼が博乃  
詩文集ハ本用あり 因而自増曰天下之人遺干結毒と二十一條也

○並作花競競賞とハ並作ハ此京あり前子も極くは此京ハ  
燕京稱す故子並作は去夏と並作と云あり 燕京の俗風俗輕薄  
ゆへ花と競競賞するあり 人情何國も一般あり今日日本  
亦も江戸等の繁華の地ハすハ挿花の會とあれ凡俗の輩何の競競  
多く人と挿花を競競し思物す大都繁華の地大抵ハ斯物思物也  
是ハ却而花と奪し却るとするにあり 是二十二條あり

○每一花再綻雲集とハ綻ハおろき夏懐ハまゝあり赤き  
幕あり 每一花再と花の盛に至る夜毎子と云夏是ハ一冬用盡て盛  
小なる夜と云 孤燈等と雲の如く子張集ると云事やより前條同様  
元依の人情と云あり 是二十三條あり

以余觀之辱花者多 悦花者少  
輦亦時有犯者特書  
一通坐右以自監戒焉

以余觀之辱花者多 悦花者少  
虛心檢點吾輩亦時有犯者特  
書一通坐右以自監戒焉







此邦も花と尊華而已多し其花の象質子後挿成し花を悦ぶ者ハ少也今吾も亦吾が心と他人して退て観る時ハ我風意の輩子色時花を辱しむる挿りと為者多し其花の性情を悦むる挿り挿成者ハ一圖角子二十三條の戒と托する挿り挿成あり

○特書一通 望古以自監戒焉とハ特子ハひとり去字ハ已獨と去更也一通ハ首尾合き一通の書と去更望古ハ其花と挿り望古の内と去更書とハ即此條目と認て張出すと去更以自とハ自分より去更ハ先手前より去更あり 監戒ハ監ハかんが戒ハいさむと去字ハ異竟此意ハ特古の條目と書して花と挿る望古の望古子張出處自先手前より戒の監とて其趣と能獲と云事あり

瓶史國字解卷之四終 大尾

瓶史海客跋



此書文具也。陸氏を以て猶指鼻事。其  
 筆。橫梨。性。詩。別。事。之。以。為。在。平。  
 三。樣。也。瓶。志。小。伎。風。流。餘。玩。也。唯  
 承。平。の。久。甲。は。無。虞。梨。丞。丞。者。所。執  
 案。教。腹。之。條。一。可。以。為。け。り。矣。世。之  
 風。華。之。製。四。郊。今。墨。明。士。女。皆  
 取。為。玩。手。事。扱。之。瓶。花。者。云。二。



長平之祥。如若平之未也。如德軍  
富与多之。曰。傾。揮。氣。表。滿。若。純。  
與。心。傳。干。世。日。未。事。り。實。宗。士。民。  
第。收。此。仗。吾。既。け。玩。也。是。最。生。  
出。初。域。風。未。儀。也。予。与。云。  
六。之。又。是。悦。見。之。鳴。呼。也。我。  
多。在。七。年。之。庚。午。及。五。玉。率。在。士。甲。

高則後





